

福島復興 何が必要？

国が出前授業 伊予農高生 議論



復興庁の中見大志参事官に質問する伊予農高生＝28日午後、伊予市下吾川

東日本大震災や東京電力福島第1原発事故について若い世代の関心を高めるため、復興庁が全国の高校で始めた出前授業が28日、伊予市下吾川の伊予農業高校であった。園芸流通科の3年生37人が、同庁の中見大志参事官の講義を受けた。

出前授業では、中見参事官が原発の廃炉に向けた取り組みや復興の現状、農林水産物への風評被害などについて説明。その後、グループに分かれて風評被害の払拭、福島の復興推進について「自分ができること」「国ができること」を話し合っ

合って発表するワークショップ

ップに取り組んだ。

生徒は「動画投稿アプリ TikTok（ティックトック）や動画投稿サイト YouTubeなどを活用して福島の正しい情報を発信する」「学内のプロジェクトを立ち上げ、農業クラブの全国大会で福島の魅力を発表する」など高校生らしい意見を発表した。

三好遥さん(17)は「風評被害があると聞いて、力になりたいと思った。一人の力は小さいけれど、少しずつでも行動できたら」と話した。

出前授業は、原発事故の風評被害払拭に向けた新たな取り組みとして本年度から始まり、愛媛など8道県8校で実施する。

(中鋪晴子)